

# 社会科学学習指導案

指導者 大野 耕作

- 1 日 時 平成24年6月18日(水)
- 2 学 年 第5学年1組 28名 [5年1組教室]
- 3 単 元 名 日本の米作りを元気に! ~地域で立ち向かう御調のお米~

## 4 単元設定の理由

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年の目標と内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように設定されている。

- (2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにする。
- ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。
- イ 我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色
- ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

本単元は、我が国の主食である米を生産する農業を取り上げ、農業に従事している人々が、消費者の需要に応え、新鮮で良質な物を生産し出荷するために様々な工夫や努力をしていることや地形や気候などの自然条件や社会的な条件を生かして生産を高める工夫や努力をしていることを調べ、それらが私たちの食生活を支えていることをとらえるようにすることをねらいとしている。

我が国では、日本全国でそれぞれの自然条件を反映しながら、様々な形で稲作が営まれている。庄内平野は代表的な稲作地帯の一つで、豊かな水と肥沃な土の恵みを受けながら、品種改良や機械化、耕地整理などを行い生産性を高めてきた。現在、本来暖かい地方の作物である米が、東北地方や北海道などで生産量が多いのも、人々がそういった厳しい自然条件を克服しながら生産性を高めてきた証であるとも言える。食糧自給率40%を切る我が国の食料事情の中で、米が100%に近い自給率を維持できていることは、日本人が稲作と深い関わりをもち、その糧を大切にしながら生活を築いてきたという米と日本人のつながりの大きさを示している。

近年、農業従事者の高齢化や消費者の食生活の洋風化による消費量の低下、米の輸入自由化など我が国の農業を取り巻く様々な問題は深刻さを増してきている。しかしそのような中でも、魚沼産コシヒカリなどにより良質な米を消費者に届けようとしたり、環境にやさしい米作りを行ったり、米粉パンなどを普及し消費者の食生活の変化に対応しようとしたりして、それらの社会的な条件に前向きに対応して取り組もうとしている農家もある。だが、そこにあるのは単一農家だけの取り組みだけではない。農作業の共同化や機械の共同利用、地域ブランドの確立や保持など、農家同士、そしてそれを支える地域で連携を取りながら取り組み、それらの問題に対応しようとしているのである。

本単元では、庄内平野の米作りと共に尾道市御調町の米作りの取り組みを取り挙げる。尾道市御調町は、山間部に位置し、町を流れる豊かな川や土壌を生かして昔から米作りを盛んに行ってきた。だが、農業従事者の所得減少や近年の社会的な問題とも重なり、農業従事者は大きく減少し、高齢化も目立ってきた。しかし、その中で、「みつぎ源五郎米」や「みつぎ健康米」など里山を保全しながら良質な米を生産しようとする取り組みや、JAを中心に生産方法の管理や適正化を行い、地域の農業従事者が協力して、安心・安全で美味しい御調の米という『御調』という産地

で消費者の信頼を確立しようと努力している。

パン食が広がり米についての関心が薄れがちな時代である。子供達にとって、このように庄内平野や御調町の人々がどのような問題と向き合い、それらをどのように乗り越えようとしているか学習していくことは、我が国の農業に対する認識を深めると共に、何気に口にしている米が、困難な社会条件の中で、多くの人々の様々な工夫や努力によって届けられていることを知り、その努力によって我が国の食生活が支えられていくことをとらえさせると共に、現存する課題に関心を持ち、それらにどう適応し、克服していくか社会の一員として考えていく態度を育むよい契機になると考え、本単元を設定した。

- 本学級の児童は、92%の児童が社会科の学習を好き（4段階評価 アンケート調査 26人/28人）と感じており、その理由として、「世の中の暮らしや社会のことを新しく知ることができる」「調べることが楽しい」と回答している。家族や知人に農家の人がいる児童は21%であるが、漠然と水田で作られていることは知っているが、米がどのようにして作られているのか知らない児童も多い。これまで児童は、資料集やインターネットなどを使って調べ学習の経験を重ね、『国土の特色と人々の暮らし』では、暖かい地方と寒い地方の暮らしの特徴を見つけようと、住居や町の様子などについて進んで情報を見つけ、まとめていた。だが集めた情報をもとに、それぞれの暮らし方の工夫や両者の共通点を考えたりする場面では、発言も一部の児童に偏り、考えを深めることが難しかった。また、統計や地図資料などを用いた際には、資料の細かな部分に目をとらわれ、全体の傾向や特徴からその意味をとらえることができない児童が多くいた。

このように児童は、米についての多くの情報は得ているが、その情報から米を作るためにどれだけの手間と工夫がかかり、それらがどんな思いからなされているかつかんでおらず、その背景にある社会的な問題と向き合う生産者の姿まで考えが及んでいない。また情報を調べ、新しい知識を得ることに喜びを感じているが、それらは調べる行為そのものや部分的な情報を得ることの楽しみに止まっており、統計や地図資料をもとに、それらがどのようなことを意味し、なぜそうなっているのか読み取る経験が少なく、事実と理由をつなげて事象の意味をとらえることが十分にはできていない。

- 指導に当たっては、次のことに留意して学習を展開する。

① 「お米のふるさと調べ」「パッケージ比較」などから問題意識を持たせる。

品種や産地、価格、生産者などお米の袋には様々な情報が掲載されている。それらを比べたり、吟味したりすると、「どんな品種や産地のお米をみんながたくさん消費しているのか」「みんながどんなお米を食べようとしているのか」など消費者の視点から見ることで、生産や流通の傾向をつかむことができる。また「なぜ同じ品種なのに価格がちがうの？」「産地が同じなのに、名前の付け方がなぜちがうの？」という疑問も生まれ、ブランド米の生産や地産地消など現在の農業の取り組みや問題にまでつなげることもでき、効果的な学習展開が期待できる。

② 体験活動と関連づけ、実感の伴った理解をさせる。

本校では、PTC 活動として校外学習『田んぼでがんぼー』で尾道市御調町で田植えや食教育の学習を行っている。それらの活動をもとに、生産方法の工夫や農業が抱える問題などを話し合ったり、考えたりする活動を通して、資料から人々の様子が想像でき、より実感の伴った理解ができるようになる。また学習の興味づけとして「お米の味比べ」を行い、品種やブランド米、ブレンド米のちがいを身体で感じ、農家や地域の人々の工夫をより深くとらえられるようにする。

③ 統計資料や土地利用図などの資料を使い、資料の読み方を高める。

資料を扱う際には、マスキングや比較資料を提示したりして、課題意識を持たせ読み取りを行えるようにする。そして、話し合いをもとに分かったことをキーワードを使ってまとめさせ、資料を関係づけながら考えを深める学習経験を積み重ねていく。

④ 生産者・消費者など様々な立場から物事を見つめさせる。

農業の傾向や社会的な問題、その取り組みの効果などを考えさせる際に、生産者と消費者、兼業農家と専業農家、農家とJAなど様々な視点から物事を考えさせ、その因果関係や理由、意味を考えさせるようにする。その際、視点ごとに分かれてグループ交流するなどしてより広い視野から物事を見つめる経験をさせる。

⑤ 農業を元気にするためにできることを意見交流し、主体的な態度を育てる。

単元のまとめとして、「消費者として私たちができること」「生産者の人々に期待すること」などを意見交流の場を設ける。その際、尾道市御調町のJAの方にも参加していただき、児童と共に未来の農業と消費者の在り方について考えを交流できるようにする。

6 研究主題とのかかわり

- (1) 本学級ではこれまで自分なりの意見をもつ場を積極的に設け、交流する活動を積んでできた。しかし、全体交流はもちろん、グループ交流でも一部の児童に発言が偏りがちで、自分の考えを述べることに自信がもてない児童が多い。また発言内容を聞いても根拠に欠ける場面も少なくない。
- (2) 本単元では、自分の意見をもつ際に、どの資料のどの部分をもとに考えたのか根拠をはっきりさせて考えを持たせるようにし、聞く側も「どの部分に納得できるか」という所を意識させて話し合いをさせる。また、生産者や消費者など様々な視点から社会的な事象をとらえる経験をつかませるために、ワークシートを活用して視点ごとにその結果や原因を考えさせ、小グループに分かれて意見交流して活動を充実させる。

7 単元の目標

- 我が国の米の生産が国民の食料を確保する重要な役割を果たして国民の食生活を支えていること、米の生産は自然環境と深い関わりをもって営まれていることや米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解し、国民生活を支える米の生産の発展について考えようとしている。
- 我が国の米の生産の様子から学習問題を見出し、地図、統計などの資料を活用するなどして調べたことを白地図や作品にまとめるとともに、米の生産の様子と自然環境や国民生活を関連づけて考えたことを適切に表現する。

8 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元の評価規準	○我が国の米の生産の様子に関心をもち、庄内平野や御調町の人々の取り組みを事例として意欲的に調べるとともに、国民生活を支える米の生産の発展を具体的に考えようとする。	○我が国の米の生産が自然環境を生かしたり克服したりして営まれていることや国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを考えたり、表現したりすることができる。	○我が国の米の生産の様子について、地図、統計など資料を活用するなどして必要な情報を集め、国民生活や自然環境とのかかわり、米の生産の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを読み取って、白地図や作品にまとめることができる。	○我が国の米の生産が国民の食料を確保する重要な役割を果たして国民の食生活を支えていること、米の生産は自然環境と深い関わりをもって営まれていることや、米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解できる。

学習活動における具体的評価規準	○我が国の米作りの様子や米作りに携わる人々の工夫や努力を調べることに興味をもっている。 ○学習を生かし、実際に行われている取り組みや友達の見解を参考にして、米作りの未来を拓くための提案を考えようとしている。	○農家の人々が生産を高めるために、工夫して稲を育てたり、作業を効率化したりしていることを考えている。 ○米作りの発展のために、どのような取り組みができるか、具体的な提案をしている。	○各種の資料をもとに、米作りに適した自然条件や人々の努力を読み取っている。 ○各種の資料をもとに、米の生産の様子を農事暦にまとめ、生産に関わる工夫を読み取っている。 ○資料をもとに、所得の低下や後継者問題、消費量の低下や外国米の輸入など、農家の人々が抱える様々な問題について読み取っている。	○農家の人々が、品種改良や作業の効率化を行い、よりよい米作りや技術を求めて互いに協力し合っていることを理解する。 ○運輸の働きによって米が消費地まで届けられていることや生産地と消費地を結ぶ運輸の費用が価格と関係していることを理解している。 ○農家の人々がより美味しい米作りを行い、ブランドを確立して、消費者の購買意欲を高めていることを理解している。 ○農家の人とJAの人達が協力し合って、安心・安全な米作りを行い、消費者から信頼を得ようと努力していることに理解している。
-----------------	--	---	---	--

8 指導計画 (全11時間)

次	学習活動	評価					評価方法
		関	思	技	知	評価規準	
一	<p>お米のふるさと調べを行い、学習課題を作る(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが食べているお米は主に西日本で作られたものだ。</li> <li>・お米は日本全国で作られている。</li> <li>・東北地方や北海道で多く生産されている。</li> </ul>	○				○ お米のふるさと調べを通して、我が国の米作りの様子や米作りに携わる人々の工夫や努力を調べることに興味をもっている。【関意態】	ノート 行動観察
	<p>お米は暖かい地方の作物なのに、なぜ寒い地方で盛んに作られているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作り方や品種にひみつがあるのかな？</li> </ul>						
二	<p>土地利用図をもとに、なぜ庄内平野で米作りが盛んに行われているのか話し合う。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内平野の人々は広い土地や豊かな水、季候などの条件を生かして米作りを行っている。御調町や世羅</li> </ul>			○		○ 土地利用図や資料をもとに、庄内平野の人々が豊かな自然条件を生かして米作りを行っていることを読み取っている。【技能】	ワークシート 行動観察

	も似ているよ。 ・作り方にも工夫があるの だろうか？					
	米作りの様子を農 事暦を作ってまとめ る。(1) ・農家の1年は忙し い。農作業をしない冬 にも土作りを行い、来 年の準備をしている。			○	○ 各種の資料をもとに、米の生産の様 子を農事暦にまとめている。【技能】	作品 行動観察
	庄内平野の人々が 米の生産を高めるた めにどんな工夫をし ているのか話し合う。 (1) ・育苗などして丁寧 に作業している。 ・機械化して作業を効 率よく行っている。				○ 庄内平野の人々が米の生産を高め るために、工夫して稲を育てたり、作 業を効率化したりしていることを考 えている。【思判】	
	庄内平野の人々が、 どうやってよりよい 米作りを行ってきた か調べる。(1) ・品種改良をしてその 土地に合うお米を作 り生産性を高めよう としてきた。 ・作業を共同して行 うことで、お互いに協 力してきた。			○	○ 農家の人々が、品種改良や作業の効 率化を行い、よりよい米作りや技術 を求めて互いに協力し合っているこ とを理解する。【知理】	ノート 行動観察
	米がどのように消 費地に届けられてい るのか調べ、輸送の費 用と価格の関係につ いて知る。(1) ・お米は遠方からも届 けられている。その関 わった人々の思いや 努力の分だけ価格と 関係している。			○	○ お米のふるさと調べをふり返り、運 輸の働きによって米が消費地まで届 けられていることや生産地と消費地 を結ぶ運輸の費用が価格と関係し ていることを理解している。【知理】	ワークシート 行動観察
三	「米粉パン」につい て知り、農家の人々が抱 えている問題につ いて調べる。(1) ・さまざまな形態（専業、 兼業）の農家の人がある。 ・高齢者が多く、後継者で 悩んでいる。 ・食生活の変化によって消 費量が減っている。 ・外国のお米が輸入されて いる。			○	○ 統計資料をもとに、農業の就業者人 数が減少していることに気付き、所得 の低下や後継者問題、消費量の低下や 外国米の輸入などがその要因となっ ていることを読み取っている。【技能】	ノート 行動観察
	御調町の人々は、これらの問題とどのようにして立ち向かっているの だろうか。					

	「みつぎ源五郎米」について調べ、新しい米作りを農家の人々が知恵を出して取り組んでいることを知る。 (1) ・「みつぎ源五郎米」を作ることで、環境にもよく、より美味しい米を生産し、ブランド化を図っている。 ・研究者と協力したり、互いに知恵を出し合ったりしながらよりよい米作りを行おうとしている。 ・「お米」パンも、食生活の変化に対応した取り組みだ。				○	○ 御調町の農家の人々が、より美味しい米作りをめざして、互いに知恵を出し合ったり、専門家と共同で開発したりしながら、消費者のニーズに合った米作りを行おうとしていることを理解している。【知理】	ノート 行動観察
	JA 御調の人々の取り組みについて調べ、地域みんなで、地域の米作りを支えていることを理解する。 (1 本時)				○	○ 御調町の農家の人々がJAの指導をもとに、互いに協力し合って、安心・安全な米作りを行い、「御調の米」という信頼を消費者から得ようと努めていることを理解している。【知理】	ノート 行動観察
	日本の米作りを元気にするための提案を考える。(1)	○	○			○ 米作りの発展のために、消費者や生産者の立場からどのような取り組みができるか、理由をつけて提案をしている。【思判】	ノート 行動観察
四	意見を交流し合い、それぞれの良さを確認し、自分の考えをまとめる。(1)					○ これまでの学習を生かし、実際に行われている取り組みや友達の意見を参考にして、米作りの未来を拓くための提案を考えようとしている。【関意態】	作品 行動観察

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

- JA 御調の人々の取り組みについて調べ、地域みんなで、地域の米作りを支えていることを理解する。【知解】

### (2) 観点別評価規準

- 御調町の農家の人々がJAの指導をもとに、互いに協力し合って、安心・安全な米作りを行い、「御調の米」という信頼を消費者から得ようと努めていることを理解している。【知理】

### (3) 本時のポイント

- JA 御調の方がなぜ農家を管理・指導しようとしているのかイメージマップを使って話し合い、ねらいに迫れるようにする。

### (4) 準備物

写真（お米のパッケージ、農作業の様子）、JAのお知らせ文、資料（取り組みの結果）、VTR

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1 「みつぎコシヒカリ」と「〇〇さんのコシヒカリ」の違いについて出し合い、課題をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「みつぎコシヒカリ」は、御調町の農家が作ったお米を集めて、商品にしていることを押さえる。</li> <li>○ 「みつぎコシヒカリ」とその他のブレンド米を味見して、気づきを出させる。</li> </ul>	
複数の農家がお米を出荷しているのに、なぜ統一感のある味になるのだろうか？		
2 「みつぎコシヒカリ」に統一感がある理由を考える。  3 JA 御調の取り組みについて調べ、肥料や農薬など生産方法や時期を管理指導していることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 米を作る工程をふり返り、グループで考えさせる。</li> <li>○ JA 御調が農家に当てたお知らせ文を提示し、生産方法や肥料、農薬の分量、時期などについて細かく規定があることを押さえる。</li> </ul>	
4 取り組みによる変化や結果を知り、なぜそれぞれの農家の生育方法や時期をそろえる必要があるのか話し合う。  5 話し合ったことを簡潔な言葉でまとめさせ、御調の人々が「御調」という産地に対する信頼を守ろうとしていることをつかませる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取り組みによって変化した結果や問題が見える資料を提示する。</li> <li>○ JA 御調が提示したきまりを守らない農家のお米をブレンドした場合、消費者やと生産者の間にどのような影響が起こるのかイメージマップを使って考えさせ、その意図を考えさせる。</li> <li>○ JA 御調を中心とした農家の人々は、力を合わせて、何を守り、何を消費者に届けようとしているのか簡潔にまとめさせる。</li> <li>○ 世羅や魚沼のコシヒカリなどの事例を取り上げ、理解を深めさせる。</li> </ul>	○御調町の農家の人々がJAの指導のもとに、互いに協力し合って、安心・安全な米作りを行い、「御調の米」という信頼を消費者から得ようと努めていることを理解している。【知理】(ノート)
6 VTRを視聴して、学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習をふり返り、御調の農家の人々がさまざまな消費者のニーズに対応しながら、地域としてその問題に立ち向かっていることを押さえ、VTRを視聴させる。</li> </ul>	○